2017

山梨県立図書館の職員が選ぶ

こんな時、この一冊

眠れない時に

眠れない夜には、羊を数えてみる人もいるだろう。ふわふわの羊を思い浮かべ眠るのも良いが、羊飼いの生活に思いを馳せてみるのはいかがか。本書では、約６００年続く羊飼いの家系に生まれた著者の苦悩と喜びが、厳しく美しい自然と共に描かれている。まぶたを閉じれば、イギリス湖水地方の羊たちが、のびのびと駆けていく。

『羊飼いの暮らし』（ジェイムズ・リーバンクス／著　濱野 大道／訳　早川書房）

最近、ひたむきさが足りないなと感じた時に

小学６年生の男の子が約１年かけて書いた、この文房具図鑑。ページをめくると、そこには文房具への愛情と情熱がぎっしり。その愛情と情熱が、家族に、友達に、文具屋さんに、文具メーカーに、出版社に伝わって、１冊の本になった。何かに夢中になることの素晴らしさ、そして人を動かすほどのひたむきさ。見習いたいものだ。

『文房具図鑑』
（山本 健太郎／絵・文　いろは出版）

何か楽しいこと ないかなーと思った時に

出歩くのも面倒くさい、お財布の中味も淋しい、でも楽しい時間が欲しいと思ったら、テンポよく話が進んで、笑える噺がたくさん詰まっているこの本、結構いけるのである。先人の磨き抜かれた話芸を覗かれたし。

『古典落語』
（興津 要／編　講談社）

やまなし読書活動促進事業によせて

本を贈ろう

山梨県立図書館長　阿刀田高

幼いころ母から絵本を一冊贈られた。とても美しい本だった。世界が大きくなった。うれしかった。いくつかの絵がらは今でも覚えている。

少年になって父から英語辞典を買ってもらった。身が引きしまった。世界が広くなった。その知識は今でも私を支えている。

父母が懐かしい。本は心に残るものだ。頭に残るものだ。中身も姿も尊い。心を込めて本を贈ろう。それは、今でしょ。

雨の日、静かに過ごしたい時に

舞台は明治の頃の疎水近くの古い家。その庭には植物、動物、この世のものではない者までが集う。雨が降っているわけではないのに、本の中には不思議と「水」の気配が近くに漂っている。植物や動物との交歓に、心の中もしっとりとした潤いに満たされる。通勤途中や昼休みの食堂ではなく、一人静かに本とともに過ごしたい時に。

『家守綺譚』
（梨木 香歩／著　新潮社）

・・・ちょっとひといき、この一冊・・・

気分転換したい時に	『ざんねんないきもの事典』 （今泉忠明／監修　下間文恵／絵　徳永明子／絵　かわむら ふゆみ／絵　高橋書店）
固定観念から脱却したい時に	『ゾウの時間 ネズミの時間』 （本川達雄／著　中央公論社）
うつむきがちに歩いている時に	『マンホール』 （石井英俊／著　ミネルヴァ書房）
癒されたい時に	『江戸創業金魚卸問屋の金魚のはなし』 （吉田智子／著　洋泉社）
気分転換に何かに挑戦したくなった時に	『いろは判じ絵』（岩崎均史／著　青幻舎）
「あんた運がいいね」と言われたい時に	『運を育てる』（米長邦雄／著　クレスト社）
美しい言葉にふれたい時に	『さりげなく思いやりが伝わる大和言葉』 （上野誠／著　幻冬舎）
元気をもらいたい時に	『のろい男』（戌井昭人／著　文藝春秋）
つかれた時に	『デトロイト美術館の奇跡』 （原田マハ／著　新潮社）
本を読みたいけれども気が進まない時に	『禁色』（三島由紀夫／著　新潮社）
心を少し軽くしたい時に	『一匹羊』（山本幸久／著　光文社）
優しくなりたい時に	『本屋さんのダイアナ』 （柚木麻子／著　新潮社）
現実逃避がうまくいかない時に	『天国にいちばん近い島』 （森村桂／著　立風書房）
冒険したくなった時に	『クローディアの秘密』（E.L.カニグズバーグ／作　松永ふみ子／訳　岩波書店）
「時間」って何？と思った時に	『あなたの人生の物語』（テッド・チャン／著　浅倉久志／[ほか]訳　早川書房）
気持ちのいい朝を迎えた時に	『朝ごはん』 （川上健一／著　山梨日日新聞社）
子どもに戻りたいと思った時に	『子ども・大人』（野上暁／文　ひこ・田中／文　ヨシタケシンスケ／絵　大月書店）
みんなでおいしいものが食べたくなった時に	『たべてみたい！』 （いしいひろし／著　白泉社）

・・・こんな時におすすめ！この一冊・・・

記憶に残る旅をしたいと思った時に	『かわいい京都御朱印ブック』 （西村由美子／著　主婦の友インフォス情報社）
旅に出ようと思った時に	『食べる。』（中村安希／著　集英社）
納豆を食べる時に	『納豆のはなし』 （石塚修／著　大修館書店）
熊に襲われた時に	『熊が人を襲うとき』 （米田一彦／著　つり人社）
今日は歩くのをどうしようか…と悩む時に	『歩けば歩くほど人は若返る』 （三浦雄一郎／著　小学館）
アンチエイジングに目覚めた時に	『西太后のアンチエイジングレシピ』 （阪口珠未／著　主婦の友社）
「宇宙、生命、人間」について考える時に	『宇宙からの帰還』 （立花隆／著　中央公論社）
近頃犬より猫が持て囃されていて面白くない時に	『チャペックの犬と猫のお話』 （カレル・チャペック／著　石川達夫／訳　河出書房新社）
知らない味を知りたい時に	『深海魚のレシピ』 （平坂寛／著　地人書館）
奇妙なメルヘンにふれたい時に	『アリスの不思議なお店』 （フレデリック・クレマン／著　鈴村和成／訳　紀伊國屋書店）
もっと高校野球を楽しみたいと思った時に	『ブラバン甲子園大研究』 （梅津有希子／著　文藝春秋）
自分の体の硬さに泣きたくなった時に	『世界一伸びるストレッチ』（中野ジェームズ修一 ／著　サンマーク出版）
懐かしい少女小説と再会した時に	『コバルト文庫で辿る少女小説変遷史』 （嵯峨景子／著　彩流社）
南の島でのんびりしたくなった時に	『エロマンガ島の三人』 （長嶋有／著　エンターブレイン）
コンビニのサンドイッチに食べ飽きた時に	『それからはスープのことばかり考えて暮らした』（吉田篤弘／著　中央公論新社）
フルーツを味わいたい時に	『まるまる、フルーツ』 （青木玉／[ほか]著　河出書房新社）
日本を見つめ直したい時に	『黄犬ダイアリー』（ドナルド・キーン／著　キーン誠己／著　平凡社）
いろいろな社会を知りたいと思った時に	『霧のなかの白い犬』（アン・ブース／著　杉田七重／訳　橋賢亀／絵　あかね書房）